



紀伊山地の霊場と参詣道

中学生用ガイドブック

みんなで学ぼう

世界遺産

World Heritage

き い さ ん ち れ い じ ょ う さ ん け い み ち
紀伊山地の霊場と参詣道

Sacred Sites and Pilgrimage Routes in the Kii Mountain Range

世界遺産副読本目次



① 人類共通の宝物「世界遺産」	1
② 日本の「世界遺産」	2
③ 世界遺産に登録された理由	3
④ 「紀伊山地の霊場と参詣道」の歴史と文化	4
A 霊場「吉野・大峯」と「大峯奥駈道」	6
B 霊場「熊野三山」と「熊野参詣道」	7
C 霊場「高野山」と「高野山町石道」	11
⑤ 世界遺産を守り伝えていくために	13

》》》》 この冊子を読むみなさんへ 《《《《

広大な宇宙の中の太陽系、その第三惑星である地球のすべてのものは、宇宙によって生み出され、宇宙の仕組みの中で存在しています。わたしたちの身体や生命を保つために必要な水や空気、太陽、そして食べ物や色々な資源なども、もとはといえば宇宙、そして母なる地球が与えてくれるものです。したがって、そうした自然の大きな力を畏れ敬い、恵みに感謝し、大切にすることを、おとこ「宇宙船地球号」の乗組員として当然のことです。

しかし、快適で豊かな生活を求める気持ちを抑えることはなかなか難しく、また、人工的に構築された都会で暮らす人々が多くなるにつれて、自然があつての人間という基本的な関係が忘れられ、その結果、オゾン層破壊や、地球温暖化、さんせいりゅう酸性雨、PCBやダイオキシンによる汚染といった環境破壊が、かけがえのない地球を蝕むようになってきました。

世界では、地球の環境をこれ以上悪化させることのないよう、国際的な取り決めに結んで対策に乗り出しています。しかし、自然を人間の都合の良いように切り刻み利用する考え方が改められないかぎり、

事態の深刻さを解消し新たな問題の発生をくい止めることはできません。そうした意味合いからも、2004年7月7日の「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録は、とても重要です。

というのも、「紀伊山地の霊場と参詣道」は、人間が自然条件に打ち勝って建築した壮大な建物が多い従来の世界遺産とは異なり、「大自然を神や仏として祈り願う信仰が形づくった景観」を特長とするため、そこには人間が自然に対する謙虚さを取り戻すための貴重なメッセージがこめられています。

この冊子は、世界遺産と「紀伊山地の霊場と参詣道」についての基本的な知識をまとめたものですが、みなさん方の身近にある文化遺産が、世界遺産の中でも珍しい特長を持ち、しかも地球を救う可能性を秘めていることを理解し、1人1人が自分の言葉でこの世界遺産の大切さを語れるようになることを願っています。

1 人類共通の宝物「世界遺産」

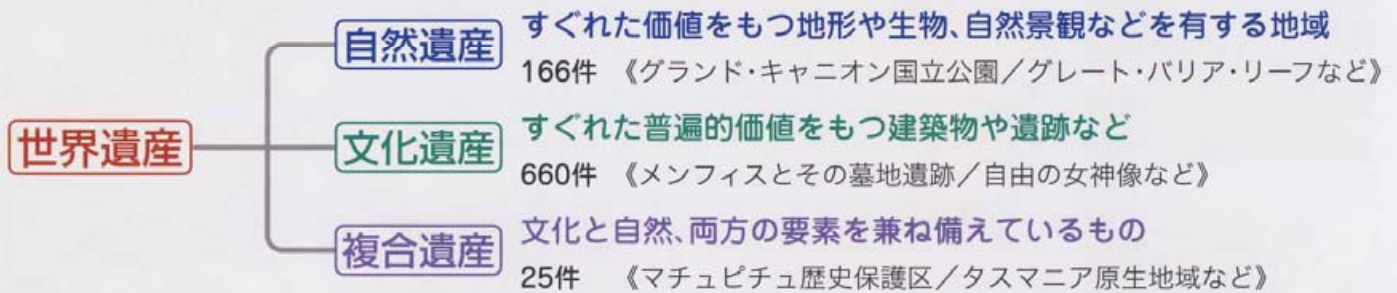
われわれの住んでいる青い惑星^{わくせい}、地球には数多くの国があり、豊かな自然とそれに育まれた素晴らしい伝統文化が息づいています。世界遺産はそれらの自然環境や文化財などを世界の人々が協力して保護し、未来へと伝えていこうとする考えから誕生しました。世界遺産は、「人類共通の宝物」なのです。

世界遺産に登録されるには、1972年にユネスコ（国際連合教育科学文化機関^{こくさいれんごうきょうがくぶんかきかん}）の総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」（略して「世界遺産条約」）にもとづき、毎年1回開催される世界遺

産委員会の厳しい審査^{しんさ}に合格しなければなりません。その際、それぞれの国における評価だけでは不十分で、世界を見渡して高い価値を持つことが必要です。毎年登録される数は25件ほどで、2007年7月の時点で世界に851件、そのうち14件が日本にあります。

世界遺産を、災害や開発などから守り、かけがえのない価値を未来へと確実に引き継ぐため、パリにある世界遺産センターを中心に、各国政府や地方自治体、地域の人々が手をつなぎ、保護のため、たゆまぬ努力が続けられています。

◎世界遺産は 自然遺産・文化遺産・複合遺産 に分類されます



自然遺産



グランド・キャニオン国立公園(アメリカ)

文化遺産



メンフィスとその墓地遺跡(エジプト)

世界にも目を向けてね!



複合遺産



マチュピチュ歴史保護区(ペルー)

文化遺産



アテネのアクロポリス(ギリシャ)

2 日本の世界遺産



番号	名称	種類	登録年度	所在地
1	法隆寺地域の仏教建造物	文化遺産	1993	奈良県
2	姫路城	文化遺産	1993	兵庫県
3	屋久島	自然遺産	1993	鹿児島県
4	白神山地	自然遺産	1993	青森県・秋田県
5	古都京都の文化財	文化遺産	1994	京都府・滋賀県
6	白川郷・五箇山の合掌造り集落	文化遺産	1995	岐阜県・富山県
7	厳島神社	文化遺産	1996	広島県
8	広島平和記念碑(原爆ドーム)	文化遺産	1996	広島県
9	古都奈良の文化財	文化遺産	1998	奈良県
10	日光の社寺	文化遺産	1999	栃木県
11	琉球王国のグスク及び関連遺産群	文化遺産	2000	沖縄県
12	紀伊山地の霊場と参詣道	文化遺産	2004	和歌山県・奈良県・三重県
13	知床	自然遺産	2005	北海道
14	石見銀山遺跡とその文化的景観	文化遺産	2007	島根県

③ 世界遺産に登録された理由

「紀伊山地の霊場と参詣道」は、2004年7月7日、ユネスコの第28回世界遺産委員会（中国・蘇州）で登録されました。推薦当初の名前は「紀伊山地の霊場と参詣道および周囲の文化的景観」といい、少し長すぎるということで「紀伊山地の霊場と参詣道」となりましたが、「周囲の文化的景観」という言葉がついた当初の名前の方が、特長をよく表しています。文化的景観というのは、世界遺産委員会における評価が近年一段と高くなってきているものの一つですが、わかりやすくいえば「人間の様々な営みと自然が一体となって形づくられた特別な意味のある景観」のことです。

「紀伊山地の霊場と参詣道」の場合は、山や森などの自然を神や仏の宿る所とする信仰が形づくった景観の代表例として、高く評価されました。

紀伊半島には「吉野・大峯」、「熊野三山」、「高野山」、の日本を代表する3つの山岳霊場と、それらを結ぶ三種類の参詣道が存在しています。これらの霊場には、高野

山金剛峯寺や熊野本宮大社など、多くの寺院や神社が建ち並び、那智原始林や那智大滝など信仰の原点である豊かな自然が息づいています。また、参詣道には、熊野川や七里御浜のように、川そのものや海岸も含まれています。



中国蘇州の第28回世界遺産委員会

世界が注目する重要な会議だよ



世界遺産の文化遺産に登録されるには、それにふさわしい価値があるかどうかを判断するために、次の6つの基準があり、そのうち、1つ以上の基準を満たさなければなりません。

- | | |
|--------------------------------|--|
| (1) 人間の創造的才能を表したすぐれた作品。 | 実例。 |
| (2) 建築物や技術の発展において重要な文化交流を示すもの。 | (5) ある文化の伝統的集落など人と環境の相互作用を示すすぐれた例で、存続が危ういもの。 |
| (3) ある文化的伝統や文明の貴重な証拠。 | (6) 顕著で普遍的な価値をもつ出来事、生きた伝説、信仰、文学的作品などと密接な関連があるもの。 |
| (4) 人類の歴史の上で、重要な段階を物語るすぐれた | |

このうち「紀伊山地の霊場と参詣道」には(2)、(3)、(4)、(6)の4つの基準が適用されました。具体的内容は以下のとおりです。

- | | |
|--|--|
| (2) 霊場に建築された寺院や神社の建物群と周囲の文化的景観は、日本古来の神道と中国大陸や朝鮮半島から伝来した仏教との融合による独特のもので、東アジアにおける宗教文化の交流と発展の結果として評価される。 | (4) 霊場に建築された寺院と神社は木造宗教建築の代表例で、その価値は高く評価される。また、高野山奥院の大名墓石群も規模及び様式の多様性とその変遷がわかることから、きわめて重要である。 |
| (3) 社寺の境内や参詣道沿い、王子社跡には経塚遺跡など多くの宗教儀礼に関連する考古学的遺跡が存在し、現在でも参詣者により儀礼が行われている。さらに、今は失われた伝統と現在でも継承されている伝統との複合の在り方を示す貴重な事例として評価される。 | (6) 霊場や遺跡は神道及び仏教、その融合で生まれた修験道など独特の信仰形態の特質を表す顕著な事例であり、現在も宗教活動が継続的に行われており、国民の精神の中に資産が活かされ、文化として生き続けていることが、評価される。 |

4 「紀伊山地の霊場と参詣道」の歴史と文化

古代から奈良や京都に住む人々は、紀の川（吉野川）から南の紀伊山地全体を、神々がこもり、仏が宿る聖域と考えてきました。それは、紀伊山地が都から見て太陽の光が差す南の方角に、太平洋に突き出た形で位置し、年間3,000mmに達する降雨がけわしい山岳地形を形成して、人々が容易に立ち入ることを許さなかったうえ、山や岩、森や樹木、川や滝など、信仰心を呼び起こす特徴的な自然の風景に恵まれていたことによります。したがって、「紀伊山地の霊場と参詣道」に含まれる霊場と参詣道は、地図に示したように、和歌山県の範囲だけに限らず、奈良県と三重県の南部を含む紀伊山地全体に拡がり、一つの世界遺産となっています。

さらに、紀伊山地の三つの霊場すなわち吉野・大峯、熊野三山、高野山は、それぞれ修験道、熊野信仰、真言密教という宗教の日本を代表する霊場で、その影響は都を始め全国に及んで、日本人の精神的・文化的な発展と交流に極めて重要な役割を果たしてきました。

この三霊場は、11～12世紀には日本の代表的な霊場としての地位を確立し、全国各地からおびただしい数の信仰者が訪れるようになりました。また、それに伴って、三つの霊場に至り、相互に結ぶ三種類の参詣道が形成されました。大峯奥駈道、熊野参詣道、高野山町石道と呼ばれるこれらの参詣道は、山岳信仰を基盤として形成された道にふさわしく、きびしい自然との接触を通して宗教的な高まりをうながす体験の場です。また、参詣に際しては歩行が原則とされ、あえてけわしい経路

も設定されており、踏破した回数も重んじられました。道の大部分は幅1m前後と狭く、石畳や階段が設置されている部分もありますが、多くは地道で、けわしく清浄な自然環境のなかにあつて、今日まで良好な状態でのこり、信仰の対象であり修行の場でもあった沿道の山岳・森林と一体となった文化的景観を形成しています。

そうした歴史を反映して、「紀伊山地の霊場と参詣道」には、国宝4件、重要文化財23件の建造物をはじめ、史跡7件、史跡・名勝1件、名勝1件、名勝・天然記念物1件、天然記念物4件、合計41件にのぼる多種多様な文化財が含まれています。また、和歌山・奈良・三重の三県にまたがる資産の面積も495.3haと広大で、さらにその周囲に保護のために設けられた緩衝地帯11,370haを合わせると11,865.3haに及び、川筋（熊野川）や海岸線（七里御浜）をも含む参詣道の総延長は307.6kmに達しています。

ただし、世界遺産の構成資産である文化財の多さや面積の広さだけに意味があるというのではなく、むしろそれらが生み出されるうえで根本的な要因となった紀伊山地の神秘的な自然と一体となり、万物の生成を司る自然を神とし仏としておそれ敬う精神を表しているところが重要なのです。

また、そうした精神が、日本古来の神々への信仰とインドから中国・朝鮮を介して日本に伝来した仏教を結びつけ、神仏習合という日本固有の思想を生み出したことも、東アジアにおける文化交流の証しとして高く評価されています。



七里御浜(三重県御浜町)



高野山奥院(高野町)

神仏習合と熊野三山の成立について

日本では、自然の物の中でも、巨大な岩や滝、樹木などに神々が宿っていると考え、それらを信仰し、祀ってきました。これが日本古来の神で、神道と呼ばれています。6世紀中頃に、仏教が伝来し、飛鳥時代以降に国を護る宗教となり、紀伊山地は仏教の修行の場となりました。平安時代前期に仏教の影響が強くなるにつれて、日本古来の神様は、仏教の仏様(菩薩・如来など)が人々を救うために「権」りの姿として「現」れたと考えられるようになりました。そこから神様のことを「権現」と呼ぶようになりました。このような考え方を「神仏習合」といい、

本宮の神様は阿弥陀如来、速玉の神様は薬師如来、那智の神様は千手観音が、それぞれ姿を変えたものだと考えられました。

また、熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社は、平安時代中頃までにはそれぞれの神様を互いに祀り合う形で「熊野三山」として一体化し、神仏習合の影響を受けて「熊野三所権現」とも呼ばれて、人々の信仰を集めてきました。さらに、本社ほんぐうの神様と関係の深い神様を加え、本宮と速玉では「十二所権現」、那智では那智大滝の滝宮たきみやを加えて「十三所権現」を祀っています。

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録資産地図



調べてみよう! さて何のことだろう?

- ① <王子跡> ② <やたがらす> ③ <経塚> ④ <ユノミネシダ> ⑤ <牛馬童子像> ⑥ <三体月>
 ⑦ <小栗判官と照手姫> ⑧ <三鈷の松> ⑨ <円座石> ⑩ <狩場明神> ⑪ <曼荼羅>

A 霊場「吉野・大峯」と「大峯奥駈道」

霊場「吉野・大峯」は紀伊山地中央の北部から中部にわたる大峰山脈の山岳地帯に当たり、標高千数百m級のけわしい山々が続く修験道の聖地で、北部を「吉野」、南部を「大峯」と呼んでいます。

「吉野」は奈良盆地の南に位置し、奈良時代以前から山岳信仰の対象でした。さらに、修験道の繁栄にとともに、開祖とされる「役行者」ゆかりの聖地として

最も重視される所となり、神道と修験道に関連する建築物や遺跡が数多くのこされています。また、「大峯」は吉野と「熊野三山」との間を結ぶ大峰山脈の総称です。山岳での修行によって超自然的な能力を身につけることを目的とする修験道では、「大峯奥駈道」を苦行を重ねながら踏破する「奥駈」（もしくは「峰入」）が最も重視されてきました。

霊場「吉野・大峯」

吉野山は大峰山脈の北端部に当たり、約7kmの尾根にそって、神社や寺院などが建ち並んでいます。それらの周囲には、役行者が本尊を彫刻したという伝承にちなみ植樹されたサクラの林が広く分布し、10世紀以来日本人の美意識を象徴する花の名所として多くの和歌や絵画にも表現され、信仰や芸術に関連する典型的な文化的景観を形成しています。

吉野水分神社は古代における分水嶺に対する信仰を祭祀の起源とする神社です。12世紀には神仏習合によって神社の祭神が地藏菩薩とされ、重視されてきました。「吉野水分神社社殿」は、本殿・拝殿・幣殿・楼門・回廊からなり、江戸時代初頭に再建されたもので、本殿は、当時流行した装飾性豊かな建築の典型です。

金峯神社は古代における金をはじめとする鉱物に対する信仰を祭祀の起源とする神社で、吉野水分神社とともに「吉野」が信仰の山となる起源となりました。また、修験道の発展に伴い峰入の際に行者が通過すべき門が設けられましたが、金峯山寺銅鳥居を第一の「発心門」とし、第三、第四の「等覚門」、「妙覚門」が山上ヶ岳に置かれ、当社の社前には第二の「修行門」にあたる鳥居が建てられて、重要な拠点とされました。

金峯山寺は修験道の中心寺院で、南南東16kmにある山上ヶ岳の大峰山寺の本堂を「山上蔵王堂」と呼ぶのに対して、金峯山寺の本堂は「山下蔵王堂」と呼ばれ、名実ともに修験道の霊場・吉野の中心として信仰を集めてきました。「金峯山寺本堂」は修験道の本尊である蔵王権現の巨像3体を安置する高さ34mの木造建築で、修験道の中心寺院にふさわしい立派な建物です。サクラの咲く四月には、本尊に桜花を供えて人間の罪をざんげする伝統的な儀式「花供懺法会」が毎年盛大に行われています。



吉野山(奈良県吉野町)



金峯山寺蔵王堂(奈良県吉野町)

吉水神社は19世紀の神仏分離令及び修験道廃止令によって神社となりましたが、元来は金峯山寺の付属寺院の中でも中心的存在として推移してきた寺院で、行者や参詣者の滞在所もしくは宿泊所として利用されてきました。「吉水神社書院」は、15世紀前半に建立された部分と16世紀末に増築された部分からなる建造物で、日本の住宅形式の基本である「書院造」の初期の代表例として貴重です。

「大峯奥駈道」

大峯奥駈道は標高1,200~1,900mの山々が連なる大峯山脈の稜線伝いに、「吉野・大峯」と「熊野」の二大霊場を約170kmにわたって結ぶ道で、そのうち86.9kmが世界遺産に登録されています。この道は、約1,300年前、わが国固有

の信仰である修験道の開祖、役行者によって開かれたと伝えられ、今もなお全国から多数の修行者が訪れています。



奥駈の様子(奈良県)

B 霊場「熊野三山」と「熊野参詣道」

熊野の「くま」には「奥深い」「こもる」「神秘的な」という意味があるように、熊野地域は紀伊半島の中でも、奈良や京都からは最も遠い南東部に位置しています。気候は温暖多雨で、けわしい山々はうっそうとした樹木におおわれ、無数の滝や溪谷は奇岩や怪石を形成し、神話の時代から人々の自然崇拜の対象となってきました。中でも、紀伊山地を南流して太平洋へと注ぐ熊野川中流の盆地にある「熊野本宮大社」と、約40km下流の河口部にある「熊野速玉大社」、そこから約22km南西の那智山にある「熊野那智大社」は、それぞれが神道による固有の祭祀起源(熊野川・ゴトビキ岩・那智大滝)をもちますが、10世紀後半には、祭神をまとめて「熊野三山」の信仰体系ができました。都や西国方面からの参詣者がたどった「熊野参詣道中辺路」がそれらを結んでいます。また、大峯奥駈道、熊野参詣道小辺路、伊勢路、大辺路の起・終点ともなっています。

熊野の三大社は、自然崇拜に起源する相互に関係する地主神「家津御子神」、「速玉神」、「夫須美神」をそれぞれ主祭神としますが、平安時代に神仏習合の影響をうけて「熊野三所権現」となり、さらに関係の深い神をも従えた「熊野十二所権現」を共通して祀るところとなりました。

また、主祭神がそれぞれ司るものに応じて阿弥陀如来(家津御子神)、薬師如来(速玉神)、千手観音(夫須美神)とされたことから一層信仰を集め、これらに直接祈願する「熊野詣」の目的地として、古代から繁栄しました。

また、紀伊山地を神仏の聖域とするだけでなく、南の洋上に観音菩薩が住む「補陀落山」を求め死をかけて漕ぎ出す「補陀落渡海」も平安時代から江戸時代まで行われてきました。

「熊野三山」は、紀伊半島南東部に位置するため、参詣者の出発地に応じて複数の経路が開かれました。その第一は紀伊半島の西岸から熊野に向かうもので、途中、二本に別れ、山中を通る主要道を江戸時代になって「中辺路」、海岸沿いを南下する道を「大辺路」と呼ぶようになりました。第二の経路として、紀伊半島東岸を通り伊勢神宮と「熊野三山」を結ぶ「伊勢路」と、第三の経路として、紀伊半島中央部を通り、霊場「高野山」と「熊野三山」を結ぶ「小辺路」があります。これらの参詣道は、近世には「熊野三山」への参詣をも含む西国三十三所観音巡礼の経路ともなり、盛んに利用されました。また、今日では、名所旧跡としての神社や仏閣を訪ね歩く人々にとっても、著名な経路としてよく知られています。

霊場「熊野三山」

熊野本宮大社は古くは「熊野坐神社」と呼ばれ、神々が降臨した伝承の地で熊野川の中州にある「熊野本宮大社旧社地大斎原」に、明治22年の水害までありましたが、明治24年に熊野参詣道沿いの現社地に移されました。社殿は、水害以前の江戸時代後期再建の部材が大部分を占め、三所権現と若王子がまつられた3棟の建物は、11世紀の参詣者の日記や鎌倉時代の絵巻によって確認できる古い形を保っています。また、大斎原から熊野川を渡った対岸は吉野山に続く大峯奥駈道の南端部にありますが、釈迦が亡くなって56億7000万年後といわれる弥勒仏の出現を願って貴重な経典や仏像を地下に埋納した遺跡「備崎経塚群」があります。

熊野速玉大社は熊野の神々が最初に降臨し、神話に「天磐楯」とも記される神倉山の巨岩（ゴトビキ岩）をご神体とし、現社地に新たに神殿を建てたことから熊野新宮ともよばれてきました。10世紀に神仏習合の影響を受けて造立された熊野最古の神像をはじめ、数多くの文化財が伝来し、歴史の厚みと社格の高さを物語っています。昭和26年再建の社殿が建ち並ぶ境内、ゴトビキ岩がある背後の権現山、熊野川を約1kmさかのぼった祭礼の場「御船島」、「御旅所」、平重盛お手植えと伝わる推定樹齢800年の「熊野速玉神社のナギ」が世界遺産の資産に含まれ、また神倉山でともした神火を松明に移し山を駆け下る「熊野御燈祭」や熊野川を舞台とする「熊野速玉祭」は、原始信仰を受け継ぐ祭礼として広く知られています。

熊野那智大社は海岸から約7km的那智山にあり、遠く太平洋上からも見ることができ、那智大滝に対する原始の自然崇拜を祭祀の起源とする神社で、熊野十二所権現とあわせて、那智大滝を神格化した「飛瀧権現」をまつっています。社殿は江戸時代に再建されたものですが、谷をはさんで那智大滝を拝することができるように配置された形式は、鎌倉時代以来ほとんど変わっていません。当初、神殿は信仰の起源をなした那智大滝の下にあり、現社地に移動して以来行われている「那智の火祭」は、滝を表す高さ6mの「扇みこし」を大松明の炎でよめる古式ゆかしい祭礼で、大滝への出御に先立ち「那智の田楽」が奉納されます。

青岸渡寺は5世紀前半にインドから熊野に漂着した僧が那智大滝に出現した観音菩薩を祀ったことに始まると伝えられています。熊野那智大社に隣接し、神仏分離令以前は、那智の「如意輪堂」として熊野那智大社と一体の寺院として発展



熊野本宮大社旧社地大斎原と熊野川(田辺市)



神倉山の熊野御燈祭(新宮市)



熊野那智大社(那智勝浦町)



大辺路安居の渡し場跡(白浜町)

してきたもので、神仏習合の形態を良く保っています。本堂は、豊臣秀吉が再建した木造の壮大な建築で、西国三十三所観音巡礼の第一番札所として、近世には全国から多くの巡礼者が訪れるようになりました。また、本堂の北にある高さが4.3mの宝篋印塔は、鎌倉時代に尼僧が願主となって造ったもので、美術的にも優れた石造物として貴重です。

那智大滝は那智山の森林を水源とする高さ133m、幅13mの日本一の滝で、熊野那智大社、青岸渡寺の信仰の原点であり、また信仰の対象そのものです。「熊野曼荼羅」や、「那智参詣曼荼羅」にも必ず描かれており、信仰に直接関連する文化的景観の典型となっています。またこの滝の麓は「那智経塚」と呼ばれる大規模な経塚の遺跡で、12世紀から13世紀を中心とする多くの仏教遺物が発見されています。

那智原始林は那智大滝の東部に広がる約32haの照葉樹林で、古くから熊野那智大社の神域として立入りや樹木の伐採が禁止されて保存されてきた森林で、自然信仰に関連する文化的景観の典型です。

補陀洛山寺は那智大滝を下ること約6km、熊野参詣道中辺路と大辺路が合流する海岸部に位置します。熊野那智大社の主祭神の本地仏である千手観音を本尊とし、また、古来熊野三所権現を祀る「浜の宮」と隣接するもので、神仏習合の信仰形態を保持しています。また小舟に乗って南方洋上の観音浄土・補陀落山を目指す僧侶により、9世紀から18世紀までの間に20数回の「補陀落渡海」の宗教的行事が行われたことで有名な寺院です。

「熊野参詣道」

熊野参詣道中辺路は摂津の蓬津王子から那智山大門坂の多富気王子まで、熊野神の御子神をまつる熊野九十九王子社を結んで延々と続く紀伊路のうち、半島西岸の田辺から東へ延び熊野三山を巡る区間が、近世に至って中辺路と呼ばれるようになったもので、京都あるいは西日本から熊野三山へ参詣する道筋のうち最もよく使われた経路です。「熊野詣」の社会風習化を促進した上皇・貴族の参詣に際しては、王子社において、厳粛な宗教儀式のほか、神々に捧げるための舞や相撲、和歌会などがしばしば行われました。

登録範囲には、熊野の神域の入口滝尻王子から、約40km東の熊野本宮大社をへて、熊野速玉大社、熊野那智大社、青岸渡寺を巡る10世紀前半以来の道と、熊野本宮大社(旧社地大斎原)から湯峯温泉に至る1.8kmの大日越の道を含みま



那智大滝(那智勝浦町)



中辺路滝尻王子跡(田辺市)



湯峯温泉つぼ湯(田辺市)

す。熊野本宮大社と熊野速玉大社の間は熊野川の舟運を利用することが多く、その他の大部分の行程はけわしい山道です。ちなみに、湯峯温泉は、有史以前に発見されたと伝えられる温泉の薬効にもとづく薬師信仰の地でもあり、すでに平安時代後期には湯屋が置かれていました。温泉の成分が固まって形成された薬師如来を本尊とする寺院や、湯峯王子があります。熊野権現は不治の病をもいやすという信仰の中心地で、小栗判官の蘇生伝説は全国に広まり、今日にも語り継がれて、多くの参詣者が入湯に訪れています。

熊野川は紀伊山地の北部に源流を発生し、南流して熊野灘に注ぐ全長183kmの河川で、熊野本宮大社から下流の熊野速玉大社までの約40kmは、両岸に点在する岩や滝の由来に耳を傾けながら数人乗りの小舟で上り下りすることが多く、他に類例の少ない「川の参詣道」として貴重です。



中辺路大雲取越円座石(那智勝浦町)

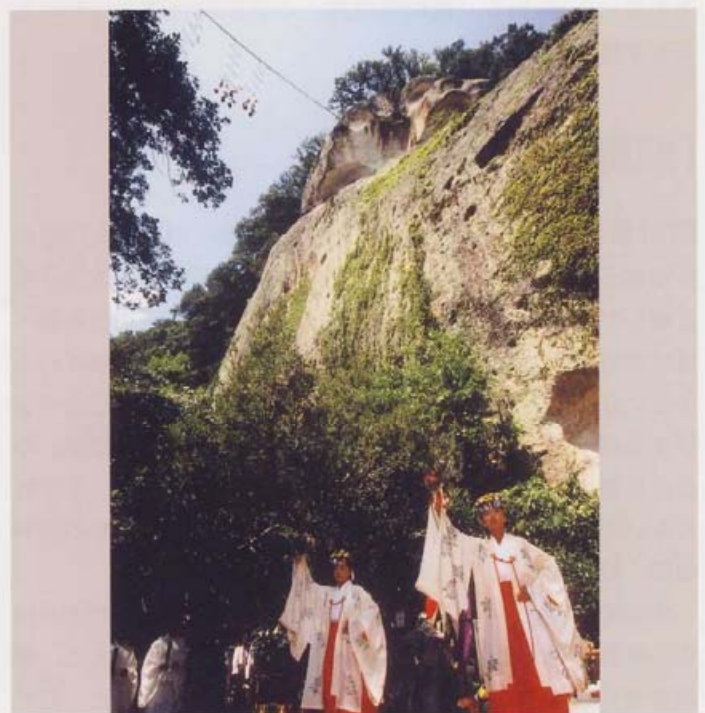
熊野参詣道小辺路は熊野本宮と高野山を南北に結ぶ最短路ですが、途中に伯母子峠・三浦峠・果無峠等の標高千m級の峠が立ちはだかる厳しい山越えの道です。全行程約70kmのうち43.7kmが登録範囲で、中辺路のような王子社はありますが、霊場への距離を刻んだ道標や、石仏、石塔をはじめ寺院や神社の遺跡も点在し、参詣道の面影をとどめています。遅くとも中世末から近世初期には参詣道として成立しており、また近世には、高野山を越えて大阪や奈良方面と熊野を結ぶ道として、人と物が行き来する所となりました。大辺路には及びませんが沿道は自然林が多く、主として近世に造られた石畳も点々とのこされています。

熊野参詣道大辺路は紀伊半島西岸の田辺から海岸線に沿って南下し、那智の補陀洛山寺に至る約90kmの道です。中辺路より距離が長く利用者は限られましたが、近世には西国巡礼を三十三度重ねる行者や、奥駈をする修験者も通っており、また、海運とともに紀伊半島西南岸の村々を結ぶ重要な道でした。一般に参詣道の周辺の大部分はスギやヒノキの

人工林ですが、この道に関しては照葉樹林が多く、海と山の織りなす美しい景観に恵まれ、文人墨客が風景を愛でながらたどりました。北端の田辺寄りに位置する「富田坂」、「仏坂」、「長井坂」の合計10kmが世界遺産の登録範囲です。

熊野参詣道伊勢路は紀伊半島東岸伝いに伊勢神宮と熊野三山を結ぶ道です。このルートが古くから存在したことは、花山法皇が伊勢路を通る参詣を計画したり、10~11世紀頃の紀行文からも確認できます。また、平安時代後期には紀伊路と並び称されるようになっていきます。しかし、伊勢路の通行が盛んになるのは、江戸時代後期に、全国からの伊勢参詣が盛んになり、その後、西国三十三所観音巡礼に人々が出かけるようになってからです。

伊勢路の道筋は、田丸から内陸部を通過して伊勢と紀伊の国の境であるツヅラト峠道に至り、いくつかの峠を越えながら海岸部を南下し、「花の窟」の前で、海岸部を通過して熊野速玉大社に至る「七里御浜道」と、内陸を通過して熊野本宮大社に向かう「本宮道」に分かれます。伊勢路の特徴は、自然石あるいは割石を使った石畳道が多いことにあります。これは、紀伊半島東岸が全国でも有数の豪雨地帯で、流水による浸食から道を守る必要があったためです。また、参詣道の周辺は、手入れされたスギ・ヒノキの美林や、竹林、雑木林などの表情が豊かな森林地帯になり、参詣道と一体となった文化的景観を形成しています。



伊勢路花の窟(三重県熊野市)

C 霊場「高野山」と「高野山町石道」

高野山は紀伊山地北部の海拔約800mの山上に位置し、八つの峰々に囲まれた東西6km・南北3kmの盆地で、日本を代表する山岳霊場です。空海(774~835)が816年に金剛峯寺を創建して以来、真言密教の根本霊場として全国的な信仰を集めてきました。山上には、現在でも金剛峯寺と117ヶ寺が密集し、1200年もの歴史を秘めた山岳宗教都市としての文化的景観を作り出しています。また、国宝や重要文化財の建物以外にも多数の貴重な絵画や彫刻などがのこされ、山の正倉院とも言われています。山麓の紀ノ川南岸にある慈尊院と丹生官省符神社は金剛峯

寺の建設と運営のために置かれた政所として空海が建てたもので、寺院と神社が並ぶ、古い信仰の形を残しています。ここから高野山壇上伽藍へは、途中の丹生都比売神社を経て、約20kmの高野山町石道が続いています。

それらの寺社の境内及び周囲には、真言密教、神道、神仏習合、修験道に関連する建物、遺跡、文化的景観が良好な状態でのこされ、地主神に対する祭祀をはじめ、空海以来の真言密教の伝統を保つ会式や、人々が幅広く参加するようになった行事などが年間を通して行われる場となって、数多くの参詣者が訪れています。

空海 空海は讃岐国(現在の香川県)に生まれ、幼いころから勉学を志し、18歳で大学に入学しますが、既成の学問にあきたらずに出家し、きびしい山岳修行を重ねました。804年、23歳の時に遣唐使船で唐に渡り、806年に帰国しました。唐では長安の青龍寺の恵果阿闍梨から真言密教の奥義をさずかり、日本に伝えました。816年に

嵯峨天皇から修行の道場として高野山を与えられ、金剛峯寺を開きました。平安時代初期の仏教界で活躍し、土木事業や教育事業にも多数の業績を残しています。835年高野山で62歳の生涯を閉じた後も人々を救い続けるとされ、921年には「弘法大師」の称号が朝廷から贈られました。

霊場「高野山」

金剛峯寺は真言密教及び弘法大師信仰の根本霊場として広く知られており、全国におよそ4000ヶ寺ある日本の真言宗寺院の中心として、宗教的伝統を保持してきました。山上の主要な地域「伽藍地区」・「奥院地区」・「大門地区」・「金剛三昧院地区」・「徳川家霊台地区」・「本山地区」が、史跡「金剛峯寺境内」を構成しています。

伽藍地区は「壇上伽藍」と呼ばれ、創建以来、高野山の中心的な堂塔が建立されてきた地区で、鎮守の丹生・高野明神をまつる山王院本殿や、14世紀に建てられた祈願所である不動堂のほか、近代に再建された根本大塔や金堂、空海の肖像画を安置する御影堂などが建ち並んでいます。

奥院地区は伽藍地区から東へ約4kmに位置し、空海の「御廟」を中心に、弘法大師をしたう各時代の人々の墓石大小約30万基が、樹齢500年の巨木に囲まれてたたずみ、特に深遠な文化的景観を形成しています。また、金剛峯寺奥院経蔵や上杉謙信霊屋など、有力な武家の造った価値の高い建造物があります。

大門地区は伽藍地区の西0.6kmに位置し、金剛峯寺の正門



金剛峯寺根本大塔(高野町)



金剛峯寺大門(高野町)

である大門がある地域で、江戸時代に再建された金剛峯寺大門は高さが25.8mあり、日本国内で最大級の木造二重門です。

金剛三昧院地区は鎌倉時代に北条政子が源頼朝と実朝をとむらう山上祈願所として建立した金剛三昧院を中心とします。高野山上最古の多宝塔をはじめ、経蔵、四所明神社本殿、客殿及び台所といった主要な建物が周囲の森林と共に良好な状態でのこされています。

徳川家霊台地区は伽藍地区の北北東0.5kmに位置し、徳川家康と秀忠の霊屋二棟を中心とし、位牌堂の遺跡を含んでいます。塀で区切られた霊屋は、技術の粋を結集して細部にまで緻密な装飾が施されており、近世初期の霊廟建築の代表例として貴重です。

本山地区は伽藍地区の東北東に隣接し、近世初期に建てられた興山寺と青巖寺の旧敷地に当たり、現在は高野山真言宗の総本山である金剛峯寺本坊が置かれ、教団組織の中心地となっています。

丹生都比売神社は古く金剛峯寺創建以前から高野山を含む地域の地主神をまつる神社で、祭神である「丹生明神」、「高野明神」は、空海が金剛峯寺の土地を選定した際の伝説に登場し、鎮守とされてきました。本殿は、4棟が金剛峯寺の方角を意識して北西に面して建ち、内部の宮殿はすべて鎌倉時代末期のものが受け継がれています。楼門は、室町時代再建時のものです。

慈尊院と**丹生官省符神社**は金剛峯寺の建設と運営の便を図るため、政所として創建され、また、参詣道高野山町石道の登り口にあたることから、参詣者が一時滞在する所ともなって、信仰を集めてきました。14世紀再建の慈尊院弥勒堂と16世紀再建の丹生官省符神社をそれぞれ中心とする境内、社地は隣接し、神仏分離以前の状態を良く保っています。

「高野山町石道」

高野山町石道は金剛峯寺への参詣に最もよく使われた主要道で、一町(約109m)ごとに金剛峯寺の中心である壇上伽藍からの距離を刻んだ町石(石製道標)が建てられています。距離は、山麓の慈尊院から壇上伽藍までが約20km、壇上伽藍から奥院の弘法大師御廟までが約4km、合計24kmです。一里(約4km)ごとに同じ形の里石も4基建てられています。町石は花崗岩の四角柱の先端に五輪塔形を彫出した形で、

全高約3.5m、重量は750kgもあります。基礎部を地中へ埋め込み、地上部分の高さは2m前後です。側面には、壇上伽藍からの距離(町数)のほか、密教諸尊の梵字の名前、建立の年月日及び目的などが彫り込まれています。もとは木製であったといわれ、鎌倉時代に高野山の僧・覚敷が石造による再興を願い、皇室や武家政権の要人、庶民の寄進をつのり、20年後に全体が完成しました。町石と里石の合計220基のうち197基は鎌倉時代のものがのこり、一町ごとに礼拝を重ねながら山上を目指した参詣の様子を今に伝えています。



丹生都比売神社楼門(かつらぎ町)



慈尊院と丹生官省符神社参道(九度山町)



高野山町石道と町石(高野町)



5 世界遺産を守り伝えていくために

世界遺産条約では、登録資産(コアゾーン)及び世界遺産特有のものとして資産の周囲に保護のために設けられている緩衝地帯(バッファゾーン)を登録時の状態に保つため、開発による環境破壊、自然災害や観光などによる影響を排除することとしています。そのため、国の「文化財保護法」を軸に、世界遺産がある県内の2市6町の「景観保護条例」と、県の「世界遺産条例」が制定されています。

「紀伊山地の霊場と参詣道」は神仏の宿る紀伊山地の自然を基盤とするだけに、景観や環境ぐるみで保護することが大切です。他の世界遺産よりも圧倒的に広い範囲を守り国際社会の一員としての責任を果たすためには、仕事として世界遺産の保護にたずさわる限られた人たちだけでなく、みなさんも含めた多くの人々が守る心を持ちつづける必要があります。

世界遺産条約について知ろう

遺産は、私たちが祖先からはるかな時間を超えて受けついできたものです。私たちの代で絶やすことなく次の世代に伝えていくために、きちんと保存していくことが私たちの責任です。過去の歴史と環境を「遺伝子」のように受け継いでいるからこそ、現在の私たちの姿があるのです。遺産を守ることは、私たちが未来を築いていく上でも大切なことです。

ところが、現実には、危機に直面している遺産もあり

ますし、すでに失われてしまったものも多くあります。無知、汚染、戦争、無計画な都市開発、貧困、不適切な観光事業など、遺産の存在を脅かす要因がたくさんあるからです。

しかし、大規模な国際活動によって、遺産が失われたり修復不可能な損傷を受けることから救われた例も、実際に多くあります。私たちが遺産についての正しい知識と認識をもてば、多くの遺産を守ることができるのです。

世界遺産の保護と活用について知ろう

遺産を守り、受けついでいくことは、自分自身に誇りを持ち、他の人を敬う気持ちを持つこと、そして多様性を受け入れることにほかなりません。そうすることが、「人の心に平和の砦を築く」(ユネスコ憲章)ことにつながります。人間どうしが、お互いに理解し合い、友好的に交流することで、平和な世界が作られるのです。

世界遺産は地域を発展させる力にもなります。私たちの世代の望みだけでなく、将来の世代の望みも満たすことができるように考えて管理すれば、経済的、科学的、技術的活動にとって、とても役に立つものになるでしょう。植物が土に育てられるように、未来は過去に育てられるのです。

全人類に共通する責任

世界遺産は人類共通の資産であり、所在する国だけのものではありません。たとえ所在しているのがその国であるとしても、保護する責任は国際的なものです。

遺産がある地域に住んでいる人、そこを訪ねる旅行者、

それを研究する研究者、それらを伝えるメディア、それらを管理する国、世界遺産条約に加盟する国々など、私たちを含めた全人類に責任があり、みんなで大切に保護していかなければならないのです。



みんなで学ぼう！ 学習に役立つホームページ

和歌山県

<http://www.pref.wakayama.lg.jp>

和歌山県世界遺産センター

<http://www.sekaiisan-wakayama.jp>

文化庁

<http://www.bunka.go.jp>

和歌山県世界遺産条例 (抜粋)

目 的

第1条 この条例は、世界遺産の保存及び適切な活用について、基本的理念を定め、並びに県及び県民等が担う役割を明らかにするとともに、県の基本施策に関して必要な事項を定めることによって、世界遺産の価値を将来の世代に確実に引き継ぎ、もって世界の人々の心の豊かさの向上に寄与することを目的とします。

基本理念

第3条 世界遺産は、人類のかけがえのない多様な価値を有する財産として守られ、適切に活用されつつ、将来の世代に良好な状態で引き継がれていかなければなりません。

和歌山県世界遺産の日及び和歌山県世界遺産週間

第4条 県は、県民等が世界遺産についての理解と関心を深めるため、和歌山県世界遺産の日及び和歌山県世界遺産週間を設けます。

- 2 和歌山県世界遺産の日は、7月7日とします。
- 3 和歌山県世界遺産週間は、7月1日から7月7日までとします。

県民等の役割

第6条 県民及び事業者は、基本理念を十分に踏まえ、それぞれ自らの世界遺産という思いを持ちながら、世界遺産を率先して保存し、及び適切に活用するように務めるものとします。

- 2 県民等は、世界遺産を訪れる場合は、ルールを守るとともに、世界遺産の魅力と価値を多くの人々に伝えるように務めるものとします。

紀伊山地の参詣道ルール

1. 「人類の遺産」をみんなで守ります
2. いにしえからの祈りの心をたどります
3. 笑顔であいさつ、心のふれあいを深めます
4. 動植物をとらず、持ち込まず、大切にします
5. 計画と装備を万全に、ゆとりをもって歩きます
6. 道からはずれないようにします
7. 火の用心をこころがけます
8. ゴミを持ち帰り、きれいな道にします



企画・発行 和歌山県教育委員会文化遺産課

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1

TEL(073)441-3740 FAX(073)441-3732

平成20年3月31日発行